

いちご・牛・人を考え、地域に活力を！

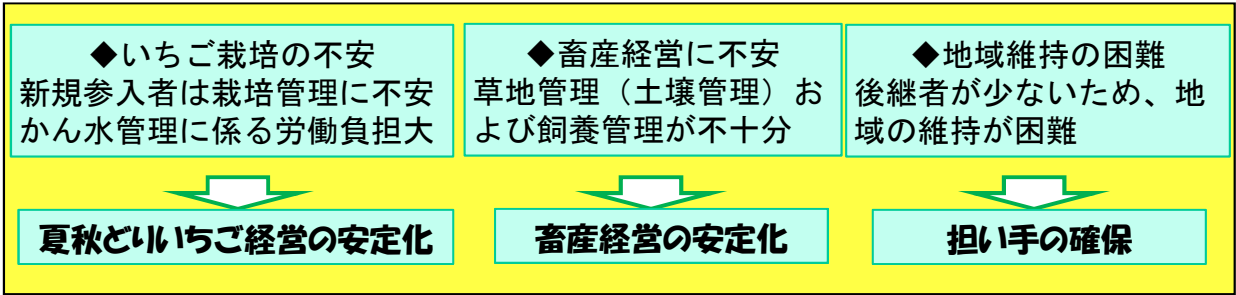
～さあ！まんぞくする、にないて育成を！～

活動年次：令和4年

日高農業改良普及センター本所

1 課題設定の背景 *****


対象：様似町田代地区（44戸）



2 活動の経過 *****

夏秋どいいちご経営の安定化


- ①農業者間における技術の共有
⇒基本技術を行う実践者の生育状況の共有。
⇒RACコード（作用機構）に基づく使用農薬の整理。
- ②作業の省力化
・排液量の確認等を簡略化
⇒流量計を製作し試験稼働。



農業者へ生育結果を報告

畜産経営の安定化


- ①牧草の収量確保に向けた肥培管理の改善
⇒基肥の適正施用（時期・量・成分）を提案。
- ②草地改善、配合飼料の改善に向けた取り組み
⇒農業者と植生調査、収量調査を実施、土壌pHによる管理の優先順位協議。
⇒牛の脂肪蓄積具合（BCS）調査
⇒牧草品質に基づく配合飼料の給餌量助言。



植生調査の様子

担い手の確保

- ①農業者の意識向上への取り組み（新規参入希望者への理解）
⇒短期滞在型農業体験研修（日高振興局主催）の重点地域開催を提案。
- ②担い手確保に向けた協議
⇒人材確保に関する情報提供。
⇒1次産業のリーダーによる座談会を提案。



町役場の担当者との協議

3 活動の成果 *****

夏秋どいいちご経営の安定化

- 基本技術の実践で目標生育量になった。
- 結果を共有し、管理の違い確認
- RACコードを考慮した防除で返品回数が減少。 <前年29回 → 本年4回>
- 流量计の活用で作業時間が55%減少(試算)。 <労賃換算: 約20万円/年>

時間/4棟

現行	400
導入後	180

年間の排泄測定時間(試算)

約55%減

防除が上手くいって、うどんこ病が原因の返品は、昨年より減ったよ(農業者)。

排液測定も時間がかかるから、作業時間が減ると負担が減るなあ(農業者)。

畜産経営の安定化

- 基肥の適正施肥で、1番草収量は地区平均を確保。 <収量地区対比 前年91%→本年102%>
- 農業者が植生調査し草地状況把握。
- 草地維持のため石灰散布実施。
- 牛の個体管理を重視した経営の実施。
- 経営規模に必要な牧草収穫量を再確認。

対象農業者における草地施肥管理の変化

	4月			5月			...	10月		
	上	中	下	上	中	下		上	中	下
例年	萌芽期	基肥	2.8kg							
R4	基肥	4.8kg								石灰散布

粗飼料や配合飼料のバランス、牛の個体管理の大切さを理解できたよ(農業者)。

自分で植生調査して、草地の現状が実感できたよ(農業者)。

担い手の確保

- 農業者が新規参入希望者と接することで農業者の受け入れ意欲が向上。
- 他産業との兼業を視野に、就農体験の取り組み検討を合意。
- 地域での農林水産業の担い手状況を共有化

新規参入希望者に説明する重点地域の農業者

視察の受け入れで、多くの人が新規参入を検討していることを実感したよ。彼らの受入方法を真剣に考えたいな(農業者)。

役場内部でも担い手に関する情報共有がありませんでした。各産業リーダーの座談会を検討し、課題の共有を図りたいです(役場職員)。

4 今後の活動 *****

夏秋どいいちご経営の安定化

- 花房整理の効果確認、給液管理方法見直しによる検証。

畜産経営の安定化

- 牧草栽培技術習得のため、草地管理や肥料、粗飼料給与方法の勉強会を開催。
- 粗飼料の栄養価を考慮した飼養管理の提案と助言。

担い手の確保

- 重点地域での就農体験、新規参入者の受入体制に関する協議。
- 町内1次産業従事者による座談会。